

■ 若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー ■

2009年11月15日(日)、日吉歯科診療所(山形県酒田市)にて、標記セミナーが開催され、全国各地から50名の学生、研修医、勤務医が参加した。2005年からスタートした本セミナーも、今回で10回目を迎え、参加者はのべ500人を超えるまでになった。

近年、歯科界を取り巻く環境は、歯科医院収入の減少や歯科医師の過剰など暗い話題が先行し、若い歯科医師たちはその将来を不安視するあまり、歯科医療の本来の価値を見失いがちである。しかし本来、歯科医療は多くの人々の健康に貢献でき、やりがいのある、すばらしい分野であるとする。



一方、歯科医師を対象としたセミナーは、技術や経営に関するものがほとんどで、歯科医師の使命や歯科医療の価値を考えるものは多くない。歯科医師免許の取得前・取得直後であればなおさら、歯科医療の本質に目を向けてほしいと考える。本セミナーを開催する目的も、これからの歯科医療を担

う人たちに、夢と希望をもって、この仕事に取り組んでほしいと願っているからにはほかならない。

セミナーでは、「Oral Physician」「若い歯科医師の研修プログラム」に関する講演、診療所見学に引き続き、質疑応答が活発に行われた。今後も多くの若い歯科医師に参加していただき、夢や希望をもって歯科医療を担ってほしいと願っている。下記以外の参加者の感想は、SAT事務局のホームページ(下記参照)に掲載されているので、併せてご覧いただければ幸いである。

仲川隆之(日吉歯科診療所)

● ベストの歯科医療を一人ひとりに

古い蔵を利用した日吉歯科のカルテ庫には、2万人以上のカルテが収められているという。単純に計算すれば、酒田市の人口のおよそ1/5にあたる。そんな多くの患者の信頼を得ている生の現場を見学したいと思い、本セミナーに参加した。

まず感じたのは、日吉歯科では診療の目的が明確であるという点である。患者が口腔機能を生涯にわたり全うできるよう、確たる基本理念の下、歯科医師や歯科衛生士は一人ずつ独立してチェアが与えられ、診療を行う。一見、それぞれが自由に診療しているように思われるが、実際には隅々にまで管理が行き届き、基本が忠実に守られている。さらに、日吉歯科では、常に大小多くの刷新(イノベーション)が繰り返され、通常の診療所にはないものがたくさんある。こうした取り組みはすべて、患者にベストの歯科医療を

提供し、「真の患者利益」を追求してきた結果なのだと思う。

現在では2万人以上のカルテを有する日吉歯科も、初めは1人の患者を診ることから始まった。一人ひとりに対してベストを尽くしてきたことで、今の姿に至っているのではないだろうか。

大澤里沙(九州大学歯学部4年)

● 10年目のスタートライン

私の歯科医師としての10年間は、補綴治療を中心に行っており、指導してくださった先生方にも恵まれ、歯科治療の価値や楽しさを知ることができた。しかし、自身の日常臨床に目を向けると、さまざまな疑問や不安を感じざるをえなかった。それらに対して熊谷先生はデータに基づき日本の現状を明らかにしたうえで、多くの気づきを与えてくれた。また、歯を残すことの重要性や、そこから生まれる価値観について具体的に説明を受けたことで、Oral

Physicianのイメージが明確になり、期待される役割を理解することができた。

意外だったのは、予防のイメージしかなかった熊谷先生が補綴治療も得意で、楽しんで診療をされている点である。そこには、「予防と治療は両輪をなすもので、どちらが欠けても医療として成り立たない」という、私にとっての最大の気づきがあり、不安に対する答えでもあった。そして同時に、ここが私の予防歯科のスタートラインとなった。今後は、このスタートラインから一歩踏み出し、患者とともに歩みを進められるよう、研修を重ねていきたいと思う。

水口裕介(北海道・水口歯科医院)

2010年「若い歯科医師のための Oral Physician 育成セミナー」開催予定

日時：8月28日(土)、29日(日)

場所：日吉歯科診療所(山形県酒田市)

申込先：SAT事務局(<http://www.sat-iso.net/dr/seminar/index.html>)